

B-45) 悪性腫瘍を疑わせた海綿静脈洞アスペルギルス腫の1例

鈴木 洋一・片倉 隆一 (宮城県立がんセンター 脳神経外科)
吉本 高志 (東北大学 脳神経外科)

症例：54才女性。家族歴・既往歴：特記すべき事なし。現病歴：平成6年10月中旬より感冒様症状、さらに眼窩部痛、眼瞼下垂、複視を訴え、近在の病院の神経内科を受診し入院した。MRI 左上海綿静脈洞内に腫瘤を認め、Torosa-Hunt 症候群が疑われ、ステロイドを投与された。しかし、症状は改善せず12月18日には左視力低下し、腫瘍性病変を疑われ当病院に紹介入院した。入院時所見：意識清明。左失明。左Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ神経麻痺。左 V1、2 感覚低下、同領域に自発痛あり。左眼球突出著明。画像所見：MRI：左上海綿静脈洞、上眼窩裂、視神経、左外直筋に等～低信号を呈す腫瘤を認め、Gd にて軽度増強された。経過：悪性腫瘍を疑い、1月26日左眼窩内容物のみ摘出した。摘出病理標本によりアスペルギルス腫と診断された。真菌種は *Aspergillus fumigatus* が分離同定された。術後 miconazole 1,200 mg/day 静注で経過観察。しかし画像上海綿静脈洞を中心とした病変は増大、左側頭葉内に腫瘤が進展したため、4月11日 bifrontal and orbito-zygomatic approach にて上、下眼窩裂を解放し、頸部内頸動脈を結紮し、硬膜内 C2 部を trapping した上で海綿静脈洞内の病変部を郭清した。また左側頭葉は病変部を含め部分切除した。同時に Ommaya tube を置き、術後 amphotericin B を髄注、また miconazole を静注投与した。再発なく自宅退院した。しかし、8月10日真菌性動脈瘤破裂によると思われるくも膜下出血を発症、昏睡状態となり3日の経過で死亡した。結語：悪性腫瘍を疑わせた海綿静脈洞部のアスペルギルス腫の1例を経験した。手術による十分な郭清と抗真菌剤の Ommaya reservoir からの髄注投与と静脈投与が効果的であった。

B-46) Parafalcial subdural empyema の1例
—脳血管撮影上の thrombophlebitis に引き続く empyema の発生を追跡し得た症例—

佐藤 元・中島 拓 (立川総合病院 脳神経外科)
西巻 啓一・福田 光典 (同 脳神経外科)
西脇 智弘 (同 耳鼻咽喉科)
笠井 郁雄・斎藤 了 (同 歯科)

従来、硬膜下膿瘍の多くは板間静脈などからの静脈炎

を介して発生するといわれているが、膿瘍発生前に脳血管写にて静脈の変化を捉えた症例の報告は少ない。我々は、MRI 上の膿瘍の発生前に、脳血管写で thrombophlebitis の所見を捉えられた parafalcial subdural empyema の1例を報告する。【症例】25歳男性。急性の歯性汎副鼻腔炎にて当院耳鼻科入院。強力な化学療法にも拘わらず、頻回の嘔吐、頭痛、全身痙攣を生じたため当科転入。軽い意識障害あり。CT は正常。MRI で左前頭葉先端の浮腫、硬膜及び静脈と思われる索状の enhancement が見られ、髄液細胞増多あり。左上顎洞から β -Streptococcus C 群を検出。転入翌日に右片麻痺を生じたが、CT 上は不変。脳血管写で左前頭葉外側群皮質静脈の不規則な狭窄と、灌流遅延を認めた。6日目の MRI で、大脳鎌左側に膿瘍貯留あり。その後、症状増悪と膿瘍増大を認めたため、開頭下に drainage 施行。2本の drain より GM 5 mg の注入を7日間行い、症状と画像所見の著明な改善を得た。術2週間後の脳血管写では、皮質静脈の異常は消失していた。

B-47) 肺線維症に続発した視交叉くも膜炎の1例

三河 茂喜・えび名 勉 (岩手県立磐井病院 脳神経外科)
荒木ひろ美・橋 信彦 (同 眼科)
二宮 久子 (同 眼科)

肺線維症に続発した視交叉くも膜炎の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。症例は56歳の男性で、家族歴、既往歴に特記すべき点はない。風邪症状で発症。胸部単純写にて両側性の肺線維化を認め近医にて経過観察されていたが、約1カ月後に右眼窩部痛に続いて進行性の両眼視力低下が出現したため、当院を紹介受診した。入院時に両眼の視力低下と結合暗点を認めた。球後視神経炎を考へステロイドパルス療法を開始し、肺線維症の改善は得られたものの視機能に関しては全く反応がなかった。更に CT cisternography, MRI, 脳血管撮影などの画像診断上も異常を認めなかった。これらの点より視交叉くも膜炎と診断し試験開頭術を施行した。視交叉部くも膜には血管増性があり右前頭葉と視神経の癒着が認められたため、これを解除した。剝離したくも膜には、くも膜細胞の増殖が認められた。術後速やかに視力、視野所見の改善が得られた。